

「修士論文作成にあたっての留意点」

社会福祉学専攻 横川 真宜（令和2年度修了）

1 先行研究の整理こそ研究の礎（資料収集）

通信制の大学院を選ばれたということで、多くの方は学部時代の卒業論文を引き継ぎ発展させるというよりは、実際に臨床で働く中で見えてきた課題や実践方法をご自身の中で一定の整理や根拠づけをするために入学された方も多いことと思います。そういった意味において、すでに研究目的や内容、研究手法についてもある程度見通しを持たれているのではないのでしょうか。中には職場等で実践報告を積み上げてきた方もいることと思います。すぐにでもアンケートやインタビューなどの調査に取り組もうと考えている方もいるかもしれません。しかしながら、私がここで皆様にお伝えできることがあるとすれば、まずは先人の軌跡を辿ることです。先行研究の収集と整理を通して、ご自身の課題意識を再度検証することができます。場合によっては、すでに問題に対する一定の解答が示されている可能性もありますし、そもそも「研究とは何か」を理解する一助となるはずです。誤解を恐れずに述べれば、実践報告と（実践）研究は重なる部分もありますが、似て非なるものといえます。

私の場合、入学前はCiNiiでの論文検索、学会誌を中心に先行研究を整理しておりましたが、入学後しばらくは図書館を活用しました。通信制の悩みでもありますが、本学図書館の利用には物理的な距離の問題もあり、スクリーング時以外に活用することができなかつたことは残念でなりません。郵送サービスもありますが、その場合、該当の図書に目星がついていなければなりません。研究当初はあまり絞り込みすぎずに、関連領域の図書にも触れることをお勧めします。そうすることで自分では考えもしなかつた分析手法や論文の体裁についても学ぶことができるからです。私は幸いなことに自宅近くの福祉系大学の図書館が開放されていたこともあり、1年次の間は月に1、2度はそちらの図書館を利用させてもらいました。しかしながら2020年に入り、新型コロナウイルス感染症が流行すると、こうした図書館を利用することは叶わなくなり、書籍や雑誌の購入もしましたが、手に入らないものも多かつたため資料集めはもっぱら国立国会図書館の遠隔複写サービスを利用することになりました。この頃はすでに手元にある論文等が参考・引用している論文の入手にシフトしていたため、いわば芋づる式に何度も国立国会図書館の遠隔複写サービ

スを利用することになりました。

この他、行政への開示請求、ソ教連の全国社会福祉教育セミナー参加、関係団体の調査報告書など、広く情報収集を行いました。

なお、こうした先行研究の整理はその都度、その書籍や論文に何が書かれていたのかまとめることをお勧めします。私の場合は先行研究ごとに簡単な要旨と将来的に引用できそうな部分については抜き出してワードファイルにまとめておきました。こうすることで、本業などで限られた研究時間の中で何度も資料を探す必要がなくなり時間を有効に使うことができました。

2 コロナ禍における研究活動

先述の通り、各地の図書館が利用しづらくなってからの資料集めは国立国会図書館の遠隔複写サービスを利用しました。依頼してから資料が届くまで時間がかかるのと、いつくらかわからない部分もあるので早めに依頼することをお勧めします。

また研究手法として郵送アンケート調査並びに半構造的インタビュー調査を実施したのですが、新型コロナウイルス感染症の流行時ということもあり、インタビューはオンラインで行いました。人を対象とした調査でしたので、アンケート調査も含め、倫理審査にかける必要がありましたが、通常の配慮事項に加え、感染症対策についても検討し記載する必要がありました。倫理審査の結果、修正を余儀なくされる可能性もあるので、早めに提出されることをお勧めします。私の場合は調査票による調査とオンラインでのインタビューという形で実施することができましたが、施設等での参与観察などの手法を選択していた場合、感染状況によっては行えない可能性もあることから、研究手法の設定ないし調査対象の調整には万全を期す必要があります。

3 研究手法や分析方法について

最後に1年次のうちに、質的データのまとめ方のワークショップに参加したり、統計学の書籍を読み込んだりすることをお勧めします。私自身は叶わなかったことから、特にアンケート調査結果が単純集計等にとどまってしまい稚拙な論文となってしまったことは認めません。率直にデータサイエンスの準備をしておくべきでした。一方で、私は1年次の時に他大学の紀要に投稿する機会を得たことから、インタビュー実施における同意書や撤回書、論文執筆の一連の流れを体験することができ、このことは修士論文作成の上で大い

に役立ちました。

4 おわりに

引き続き新型コロナウイルス感染症の断続的な感染拡大が繰り返される中で、仕事と生活の両立だけでも大変な中、どのように研究を行えるか不安に感じておられる方もいらっしゃると思います。まず指導教員の先生に相談し、研究計画を共有することが重要です。また1年次生の方は、焦らず研究の基礎力を培われることが突破口となることと思います。

修士論文執筆は苦しいことも多いと思いますが、納得のいく修論を完成されますことを心よりお祈りしております。